

広島市立安佐市民病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください

研究課題名	腹腔鏡下膀胱全摘除術の検証 -多施設共同研究-
研究責任者 (所属科名)	泌尿器科 主任部長 三田耕司
本研究の目的・意義	<p>膀胱癌に対する根治的膀胱全摘除術が最も治療効果の高い癌治療であることには疑う余地があるません。しかしながら膀胱全摘除術後に尿路変向術を必要とすることから本術式は泌尿器科領域において最も侵襲度の高い術式の一つとも考えられます。また、手術時間が長時間となるがゆえに周術期の合併症の発生率は比較的高く、入院期間の延長を余儀なくされる場合も多いのが現状です。</p> <p>一方で 1990 年代以後、腹腔鏡下手術が泌尿器科領域において急速に普及し、腎腫瘍、上部尿路腫瘍、前立腺癌などの術式において開腹手術と比較して明らかな低侵襲性にもかかわらず同等の治療効果が報告され、すでに標準術式と考えられています。</p> <p>膀胱癌に対する腹腔鏡下膀胱全摘除術は 1995 年に報告され、その後様々な術式の工夫がなされ現在に至っていますが、その侵襲性や治療効果については未だに不明な部分があります。そこで今回、経験症例数の比較的豊富な多施設による大規模な腹腔鏡下膀胱全摘除術の周術期成績を後方視的に検証します。</p>
調査方法・調査期間	<p>調査方法：後ろ向き観察研究です。</p> <p>2012 年 4 月 1 日から 2018 年 12 月 31 日までに広島市立安佐市民病院、中津第一病院、呉医療センター、福山医療センター、松山赤十字病院、愛媛県立中央病院において対象期間に膀胱癌に対し腹腔鏡下膀胱全摘除術を施行された方の情報を調査します。</p> <p>調査期間：2019 年 1 月から 2019 年 12 月までです。</p>
該当資料・データ	<p>★対象となる患者様</p> <p>2012 年 4 月 1 日から 2018 年 12 月 31 日までに広島市立安佐市民病院、中津第一病院、呉医療センター、福山医療センター、松山赤十字病院、愛媛県立中央病院において対象期間に膀胱癌に対し腹腔鏡下膀胱全摘除術を施行された方。</p> <p>★利用する情報</p>

	電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会・学術論文で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は一切利用しません。
共同研究機関	中津第一病院、呉医療センター、福山医療センター、松山赤十字病院、愛媛県立中央病院
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	広島市立安佐市民病院 泌尿器科 主任部長 三田耕司 電話：082-815-5211 (代表)
備考	